

Vision 3 大学生生活の頼りになるパートナー、セーフティネットとしての大学生協

Action Plan Safety net

Goal

08 組合員のこころとからだを育む生活基盤としての食生活支援事業になっている。

- 生活者として多様な組合員の多様な要望に応える食生活支援の確立を、組合員の利用と参加を通じて実現します。
- 生協のお店の利用を通じて、組合員が正しい「食の知識」を持ち、あふれる情報に対して自分で考え、バランスよく食事を選択できるお店づくりを進めます。
- 組合員が、食べ物を生産・加工する現場を知り、体験する機会を設け、生活者として社会や生産者とながり、「地産地消」「食」の大切さを考える取り組みを広げます。
- 組合員の食堂の利用実態から、学生が何を食べているのかを把握し、大学とともに組合員の自立した食生活の取り組みを進めます。



東京大学本郷キャンパス中央食堂



Goal

09 学生一人ひとりの学業継続やキャンパスライフに貢献し、相互扶助や協同の精神を育てている。

- 学生の心身の健康を育むために、大学の保健管理センターや学生相談室・学生支援部署等との連携を強め、すべての学生が大学生活に必要な万のための保障・補償制度に加入することを大学とともに目指します。
- CO-OP 学生総合共済をはじめ大学生協が提案する保障・補償制度が、すべての会員生協で旺盛に展開されて、大学との連携が進み、学業継続につながるように、予防活動やメンタルヘルスへの対応、健康づくり、健康増進の取り組みが、多くのキャンパスで広がっている状態を目指します。
- 大学生協共済の「たすけあいビジョン 2030」にもとづき、CO-OP 学生総合共済の顔の見える4本柱の活動を、すべての会員生協で推進・強化します。

加入：新学期を中心にしながらも、年間を通した全員加入を目指す取り組みを強めて、たすけあいの輪を広げます。

給付：積極的な広報活動により、給付申請忘れゼロを目指して、たすけあいの実感を強めます。

予防：給付事例の学習や学生のさまざまなリスクにもとづいた、創意工夫あふれる予防活動を、学生相互の取り組みとして展開します。

報告：給付ボードをはじめとした学生への報告、アニュアルレポートや定期的な大学への報告、さまざまな地域社会への発信を、強めます。

- 学生生活のセーフティネットとして、「たすけあい奨学制度」をすべての大学に広げて、奨学金給付者を増やします。



Goal

10 学生の生活をサポートし、組合員が自立した大学生活を送るための支援事業になっている。

- すべての大学生協で一人暮らしをする組合員が「自炊・洗濯・掃除」といった家事を始める段階でのサポートをする取り組みを強化します。
- 一人暮らしの組合員に寄り添い、「安心で快適な」生活を送れる住まいの事業に取り組みます。
- 震災・災害用品の日常的な提供とともに、災害時には組合員の安否確認や保護者への連絡などを大学と一緒に取り組み、命と暮らしを守る取り組みを進めます。



自炊のすずめ



Goal

11 組合員にとって憩い・潤いの場としての生協の事業と店舗になっている。

- すべての大学生協で多様性を尊重し、誰一人取り残さない事業とお店を目指します。
- 憩いと潤いの場として、組合員同士が楽しくコミュニケーションできるお店作りを進めます。
- キャンパスでの生活に必要なものが揃っていて、組合員にとって安心で安全なお店作りを進めます。
- 組合員と生協職員のコミュニケーションでのお店作り、組合員自身が運営参加していると実感できるお店作りを目指します。
- 学部生だけでなく、大学院生、教職員など、一人ひとりの組合員に寄り添える事業や店舗を目指します。



カフェレストラン 梅光学院大学



Goal

12 ジェンダー平等、ダイバーシティの推進に向けた活動や事業環境、職場づくりが実現できている。

- 国籍・人種・宗教・性自認・性的志向や障がいの有無にかかわらず、必要とするすべての人が分け隔てなく快適に利用できる商品やサービス・事業環境をつくり、組合員の多様性に応じて、参加しやすい事業と活動をつくります。
- 会員生協の労働環境改善・コンプライアンスを促し、一人ひとりの生協職員が働きやすい職場作りを進めて、各大学生協で数値目標を定め、女性の幹部職員（店長・専務理事等）比率を大学生協グループ全体で40%以上に高めます。
- 各大学生協で、障がい者雇用の環境整備を積極的に行います。
- 環境に配慮した商品を推進することで、障がい者の社会参加を上げ持続可能な社会づくりに貢献する組織・企業の活動に協力します。



Goal

14 学生生活実態調査や諸種のアンケート・ヒアリング・さまざまな場面での対話活動等を通じて、「日本で一番大学生のことを知っている組織」として、学生の実態を社会に発信し続けている。

- すべての大学生協で学生生活実態調査をはじめとした組合員の生活実態・生活実感を知る活動を強化します。
- 大学生を支援したい・つながりたい企業・NPO 団体との「つなぎ役・窓口」になることを目指します。
- 大学内外に向けて、その時々々の学生の実情の発信、広報活動をさまざまなレベルで進めます。



Goal

13 協同組合間協同や地域社会との連携で、学生の生活支援・学修支援ができています。

- 地域社会や地域生協との協同組合間協同を通じて、大学とともに、経済的に困難な学生へのさまざまな支援を継続的に取り組みます。
- 学生の大学での学びを、地域社会や地域生協をフィールドに学生が実践できることを目指します。
- 資格取得、海外留学、就職、友人関係などの日常的な悩みを語り合う、コミュニケーションの場を設定します。
- 学生街の商店会といった地域コミュニティと連携し、アルバイト紹介やブラックバイトの対策の交流等の実施を強化します。
- 社会保障や卒業後の保険についての学習会など、将来にわたる「暮らし」を支える取り組みを進めます。



大学・県生協連との協力で食料配布
宮崎大学生協

